


DIGITAL RADIO TERMINAL EQUIPMENT AND ITS BATTERY MONITOR CONTROL METHOD

Patent number: JP9252326
Publication date: 1997-09-22
Inventor: ASANO KATSUHIRO
Applicant: KOKUSAI ELECTRIC CO LTD
Classification:
- international: H04L27/18; H04B1/04; H04B1/40; H04B7/26; H04L27/34
- european:
Application number: JP19960059560 19960315
Priority number(s):

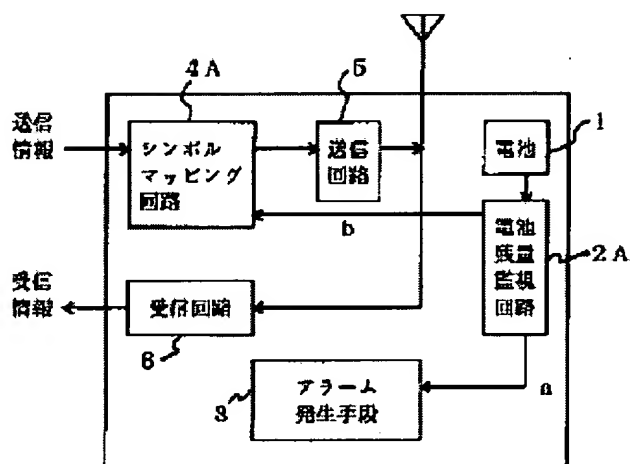
Also published as:

 J P9252326 (A)

Abstract of JP9252326

PROBLEM TO BE SOLVED: To allow the method to have provision for replacement of a battery or the like by extending a speech available time when the battery is consumed.

SOLUTION: A battery residual monitor circuit 2A provides the output of an alarm signal (a) and a symbol mapping revision instruction (b) when a battery residual amount reaches a prescribed capacity or below. A symbol mapping circuit 4A receiving the instruction (b) conducts symbol mapping to reduce transmission power from a transmission circuit 5 more than that in the normal state thereby reducing the power consumption. Thus, the speech time at consumed battery is extended.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-252326

(43) 公開日 平成9年(1997)9月22日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 L 27/18			H 0 4 L 27/18	Z
H 0 4 B 1/04			H 0 4 B 1/04	P
		1/40	1/40	
		7/26	7/26	X
H 0 4 L 27/34			H 0 4 L 27/00	E

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平8-59560

(22) 出願日 平成8年(1996)3月15日

(71) 出願人 000001122

国際電気株式会社

東京都中野区東中野三丁目14番20号

(72) 発明者 浅野 勝洋

東京都中野区東中野三丁目14番20号 国際

電気株式会社内

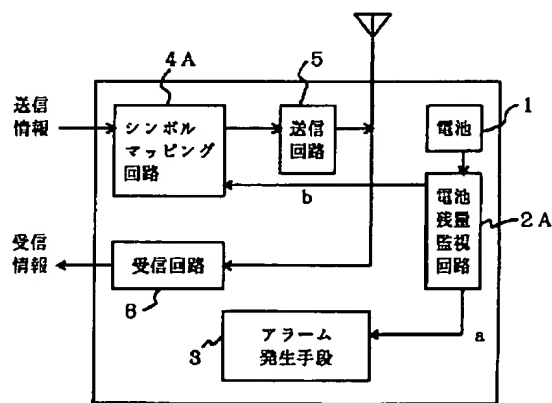
(74) 代理人 弁理士 高崎 芳敏

(54) 【発明の名称】 デジタル無線端末装置とその電池監視制御方法

(57) 【要約】

【課題】 電池切れ時の通話可能時間を延長し、電池交換等の対応をとり易くする。

【解決手段】 電池残量監視回路2Aは、電池1の電池残量が所定値以下になるとアラーム信号aとともにシンボルマッピング変更命令bを出力する。この命令bを受けたシンボルマッピング回路4Aは、送信回路5からの送信電力が通常時より低下するようなシンボルマッピングを行って消費電力を少なくする。これによって電池切れ時の通話時間を延長できる。



本発明によるデジタル無線端末の一構成例

【特許請求の範囲】

【請求項1】 送信デジタル信号をキャリアを変調用の信号形式に変換するためのシンボルマッピング回路と、該回路からの信号を変調して送信するための送信回路と、電源用電池の電池残量を監視してアラーム信号を出力する電池残量監視回路とを備えたデジタル無線端末装置に於て、

前記電池残量監視回路は、前記電池残量が所定値以下となったときにアラーム信号を出力するとともに前記シンボルマッピング回路に対するシンボルマッピング変更命令を出力する機能を有し、前記シンボルマッピング回路は、前記シンボルマッピング変更命令を受けると前記電源用電池の消費量が通常時よりも減少するような省電力シンボルマッピングを行う機能を有したことを特徴とするデジタル無線端末装置。

【請求項2】 前記省電力シンボルマッピングは、通常時よりも前記送信回路出力キャリアの振幅が小さくなるシンボルマッピングであることを特徴とする請求項1記載のデジタル無線端末装置。

【請求項3】 前記電池残量監視回路における電池残量監視のための電池残量の検出は、フル充電状態の電池残量から、待ち受け時間及び送信通話時間に応じた電力消費量を差し引くことにより行うことを特徴とする請求項1記載のデジタル無線端末装置。

【請求項4】 デジタル無線端末装置の電源用電池電池残量を、当該デジタル無線端末装置の待ち受け時間及び送信通話時間の累積値を用いて検出し、該検出した電池残量が所定値以下となったときに送信電力を低下させるようにしたことを特徴とするデジタル無線端末装置の電池監視制御方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、デジタル無線端末装置とその電池監視制御方法に係わり、とくに電池残量監視機能を有したデジタル無線端末装置とその電池監視制御方法に関する。

【0002】

【従来の技術】携帯電話機等のデジタル無線端末装置では、その電源を電池から供給しているが、通話中に電池の充電量が少なくなるとその通話が切れてしまう。そのために、電池残量監視回路を設け、電池の充電量が所定値以下になると警報を発するデジタル無線端末装置が開発されている。

【0003】図5は、電池残量監視回路を備えた従来のデジタル無線端末装置の概略構成を示す図で、アンテナからの受信信号は、受信回路6で周波数変換、検波、シンボル判定等の受信処理を受け、受信情報として出力される。一方、送信情報は、シンボルマッピング回路4にて、例えばQPSKを行うためのベースバンド信号に変換され、送信回路5ではそのベースバンド信号による

変調、周波数変換等が行われてアンテナから送信される。電池1は、上記の各回路に電源を供給するものであるが、その電池の充電状態は電池残量監視回路2により監視されており、充電量が所定値以下になるとアラーム発生手段4からアラームが出力されて、使用者に電池切れであることを知らせる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上記した従来の電池残量監視回路を用いて警報を出す方法では、電池切れのアラームを出した直後に通話ができなくなってしまう。従って、電池切れが近づいたときに通話を早めに切り上げ、電池を交換するなどの対応をとる余裕がないという問題があった。

【0005】本発明の目的は、上記した従来技術の問題点をなくし、アラームが出力されてもしばらくは通話が可能で、電池交換のための余裕時間を作ることができるデジタル無線端末装置とその電池監視制御方法を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記の目的のために、本発明では、送信デジタル信号を変調用の信号形式に変換するためのシンボルマッピング回路と、該回路からの信号を変調して送信するための送信回路と、電源用電池の電池残量を監視してアラーム信号を出力する電池残量監視回路とを備えたデジタル無線端末装置に於て、前記電池残量監視回路は、前記電池残量が所定値以下となったときにアラーム信号を出力するとともに前記シンボルマッピング回路に対するシンボルマッピング変更命令を出力する機能を有し、前記シンボルマッピング回路は前記シンボルマッピング変更命令を受けると前記電源用電池の消費量が通常時よりも減少するような省電力シンボルマッピングを行う機能を有したことを特徴とするデジタル無線端末装置を提供する。

【0007】さらに本発明では、前記電池残量監視回路における電池残量監視のための電池残量の検出は、フル充電状態の電池残量から、待ち受け時間及び送信通話時間に応じた電力消費量を差し引くことにより行うことを特徴とするデジタル無線端末装置を提供する。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を説明する。図1は、本発明になるデジタル無線端末装置の構成例を示すブロック図で、従来例の図5と同一の回路には同一の符号が付されている。図5と異なっているのは、電池残量監視回路2Aから、電池切れ検出時にアラーム発生命令aと同時に、シンボルマッピング変更命令bがシンボルマッピング回路4Aに送り出され、シンボルマッピング回路4Aはこの変更命令bを受けると通常とは異なるシンボルマッピング動作を行う点である。

【0009】図2は、電池残量監視回路2Aにおける電池残量監視の処理を示すフローチャートである。同図に

於て、本体電源が投入されると、電池1の端子電圧の測定あるいは装置使用時間の積算等により電池残量を求め、その電池残量が所定値以上かを調べる（ステップ21）。所定値以上なら引き続き電池残量監視を行うが、電池残量が所定値以下になった場合は、通常モードから省電力モードに移行する（ステップ22）。ここでは、アラーム発生手段3に対してアラーム発生命令aを出力し、シンボルマッピング回路4Aに対してはシンボルマッピング変更命令bを出力する。その後電池残量監視回路はその動作を停止する（ステップ23）。

【0010】上記のステップ21における電池残量の求め方として、電池1の端子電圧を測定する場合は電圧計測手段を設置する。また装置使用時間の積算による場合は、受信待ち状態にある間の待ち受け時間xを積算する待ち受け時間カウンタと、送信状態となっている間の送信通話時間yを積算する送信時間カウンタと、電池使用量u、電池残量v及び上記の待ち受け時間x、送信通話時間yの値を電源オフ時でも記憶できる不揮発レジスタRx、Ry、Ru、Rvとを設け、図3に示したフローチャートに従って電池残量vを求める。

【0011】図3（a）に於て、端末ユーザーが電源投入すると、まず前回の電源切断時の割り込み処理（図3（b））により記憶された待ち受け時間x、送信通話時間y、電池使用量u、電池残量vを不揮発レジスタRx～Rvからそれぞれ読み出す（ステップ31）。次に、もし新たに充電完了した電池に交換した際は、ユーザーが電池残量監視回路2Aに監視開始指示入力を行う（ステップ32）。この入力を受けた時には、それまでの待ち受け時間x、送信通話時間y、及び電池使用量uをすべてクリアして0とし、また電池残量vを電池容量（フル充電量v0）とする（ステップ33）。

【0012】こうして、電源投入時の電池残量v等の計算開始の準備が終了すると、予め定められた周期のカウントタイミングになったかを調べ（ステップ34）、そのタイミングになるとその時の端末の動作状態に応じて待ち受け時間カウンタあるいは送信時間カウンタのカウント数、即ち待ち受け時間xあるいは送信通話時間を+1し（ステップ35）、電池使用量u及び電池残量vを積算する（ステップ36）。

【0013】この計算は、待ち受け状態にあったときの上記カウントタイミング一周期の間の消費電力量をPx、送信状態にあったときの上記一周期の間の消費電力量をPyとすると、これらの量は予めわかっているから、

$$【数1】 u = Px \cdot x + Py \cdot y$$

$$v = v0 - u$$

により行うことができる。但しv0は電池フル充電時の充電量である。こうして求められた現時点の電池残量vが先に説明した図2のステップ21で参照される。

【0014】電源切り替え時には、図3（b）に示した

ように、不揮発レジスタRx～Rvに、その時点の待ち受け時間x、送信通話時間y、電力使用量u、及び電池残量vの値を格納し、次の電源投入に備える。以上の図3（a）（b）に示した電池残量監視方法を用いれば、電池残量を正確に把握できる。

【0015】次に、図2で説明した省電力モードにおけるシンボルマッピング回路4Aの動作を説明する。図4は、通常モード及び省電力モードにおけるシンボルマッピングの説明図で、変調方式は $\pi/4$ シフトQPSK方式としている。そしてこの例では、シンボルマッピング変更命令bにより省電力モードが指定されると、シンボルマッピング回路4Aは通常モードの振幅h0より小さい振幅h1（位相は同じ）を変調出力とする。このように送信出力を下げるようにシンボルマッピングを変更すると、伝送品質が劣化するが、同時に消費電力が低下するので電池が消耗しきるまでの時間が延長でき、アラーム発生後にすぐに通話不能になるのを防ぐことができる。

【0016】なお、図3の電池残量を求める処理では、電源オフ時に電池残量vの他に待ち受け時間x、送信通話時間y、及び電池使用量uも不揮発レジスタに保持するものとした。しかし、電池残量vのみを不揮発レジスタに保有し、電源投入時には待ち受け時間x、送信通話時間yを0からカウントし、さらに（数1）のv0を不揮発レジスタから読みだした電池残量として（数1）を用いるようにしても、電池残量vを求めることができる。また、省電力モード時のシンボルマッピング方法としては、信号の変調方法に対応して消費電力を低下させる方法であればよいことはいうまでもない。

【0017】

【発明の効果】本発明によれば、電池残量が少なくなつてアラームを出力したときに、消費電力が小さくなるようにシンボルマッピング方法を変更することで、アラーム出力後の端末使用時間を延長でき、電池交換等の対応を早めに行えるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明になるディジタル無線端末装置の一構成例を示すブロック図である。

【図2】電池残量監視処理のフローチャートである。

【図3】電池残量算出方法の一例を示すフローチャートである。

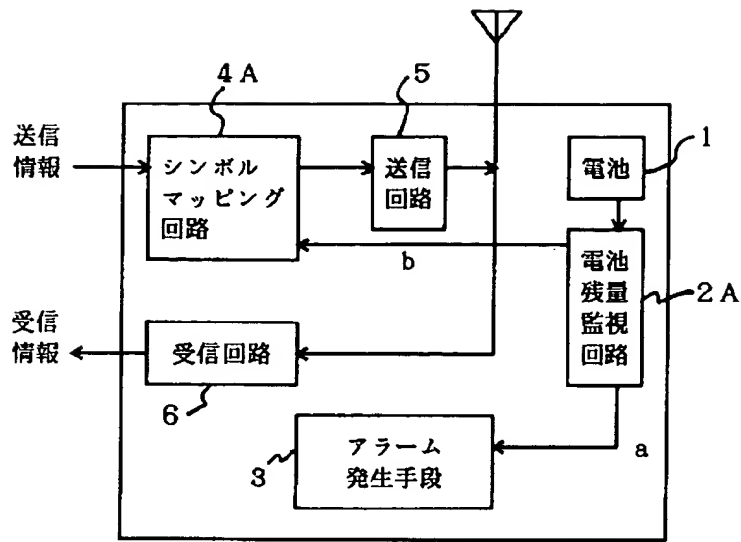
【図4】シンボルマッピング変更方法の例を示す図である。

【図5】従来のディジタル無線端末装置の構成例を示すブロック図である。

【符号の説明】

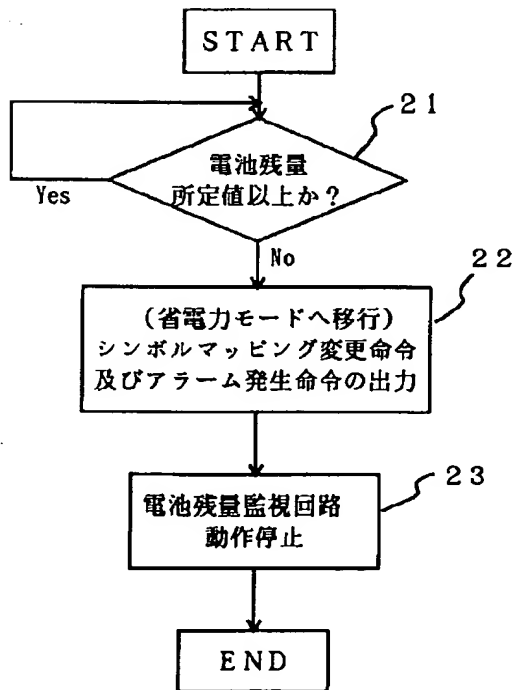
- 1 電池
- 2A 電池残量監視回路
- 3 アラーム発生手段
- 4A シンボルマッピング回路

【図1】



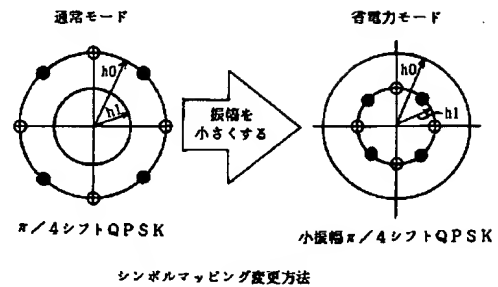
本発明によるデジタル無線端末の一構成例

【図2】

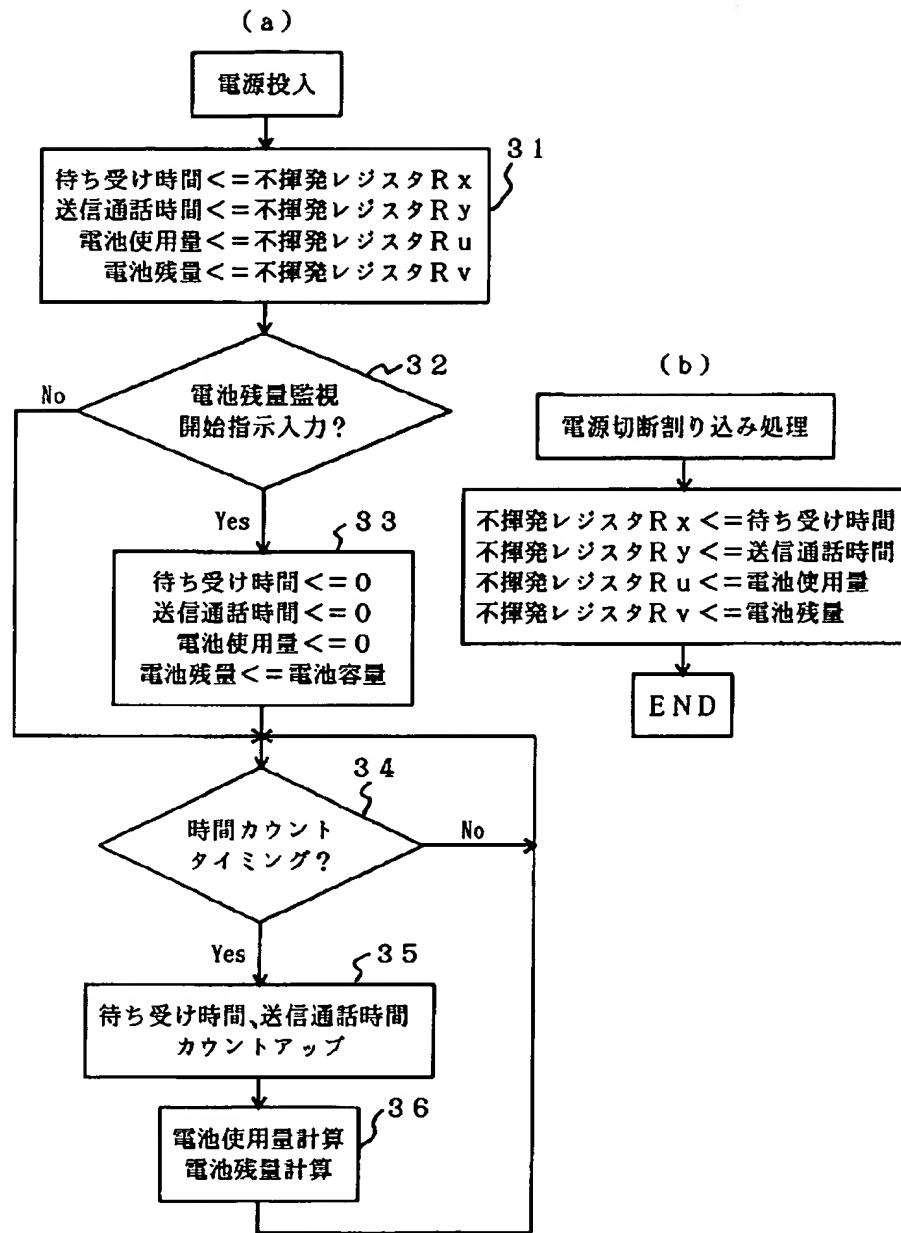


電池残量監視回路処理フロー図

【図4】

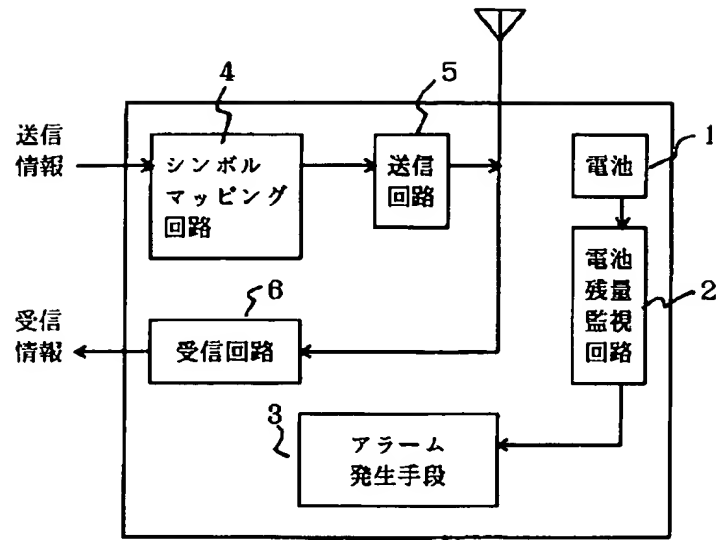


【図3】



電池残量監視方法の一例

【図5】



従来のデジタル無線端末の一構成例